

令和元年度「町村議会議員特別セミナー」聴講報告  
(2019年10月3日～4日)

総務産業常任委員 岡田建二郎

1. 『近未来の日本農業と地域社会～政策を考える基本視点～』

福島大学食農学類長・教授 生源寺 眞一 氏

- ・1960年代80%だった食料自給率が2010年代には28%に 海外依存度が激増  
⇒経済成長と共に、米・イモ文化から小麦・肉・油脂文化へ食生活が激変
- ・経済成長に合わせて外食率が増加し、消費者の買い方・食べ方が変化
- ・食料自給率を論じる際には“カロリーベース”か“生産額ベース”かが重要  
⇒カロリーの殆どないレタスの経済的な価値 一方、輸入牛肉はカロリーが高いが和牛と比較して価値が低い
- ・最大の課題は水田農業 貸し出される農地は増加、引き受ける世代層の育成がカギ
- ・政治の混乱に翻弄された農政→政権内での覇権争い+政権交代による農政転換

※大切なのは筋の通った政策

「人・農地プラン」「戸別所得補償」「TPP/EPA/FTA」「農地管理中間管理事業法」「農協改革」等、農政を取り巻く課題に対して、地方自治体の農政担当者・集落営農組織・農家を支える人への負担が軽薄・欠如

※現場の声が農政に反映されない現象は、農政の変化が密室で進んでいる実態の反映

※個別農地（イギリス：大 ドイツ：中 イタリア：小）をどこへ誘導するのか政策的な議論も見える化を

2. 『内発力は逆境を順境に変える』

長野県川上村・村長 藤原 忠彦 氏

- ・昭和26年朝鮮戦争時に特需でレタス栽培が始まる（きっかけは米軍需要）
- ・約500戸の農家で200億を売り上げる（1戸当たり400万）
- ・繁忙期には村内を2000台の大型トラクターが行き交う
- ・産業が起きる要素 ①時流－米軍の推駐・日本人の食生活の変化（洋食化）  
②資源－平地林の開拓・農地改良の継続  
③人
- ・所得は上がったが、幸福の満足度が上がったわけではない⇒人間の欲望は無限
- ・「衣食住」は個人の努力 「情報・交通・高齢化・交流」は公共の努力  
⇒ケーブルテレビの普及・活用によって農業に関する情報を農家に提供  
⇒白ナンバーのスクールバスを混乗バスで実現（文科省と交渉） 公共交通が黒字化  
⇒訪問看護師が「おくりびと」 看取りから着替え・死に化粧までを担う

- ・県下一低い医療費を実現（平成 30 年度 一人当たり医療費 188,023 円）
  - ・友好姉妹都市提携・木材資源提供・国際交流都市提携・親善大使
  - ・24 時間開設図書館の開館→本が盗まれるどころか、新刊の提供が多く著書が増大
  - ・農家の子どもはほとんど帰郷 農家の教育水準が向上・高度化 強い農業へ  
農家の嫁は都会的（ファッション・デザイン・アート）→女性がカギ
- ※30 年村長として村政を牽引してきた根底に哲学あり  
人の税金で自分のロマンを追及できる仕事が村長（やりがいあり）
- ※「行政は殺人と人身売買以外は何でもできる」（大義が必要）

### 3. 『「子育て」で地域に人を呼び戻す ～森のようちえんを起点とした取組～』

- NPO 法人 智頭町 森のようちえん『まるたんぼう』・理事長 西村 早栄子 氏
- ・森のようちえん ①園舎を持たない：町の森がフィールド（町内 14 か所）  
②日課を設けない：子供がやりたいことを村長する（大人は共感者）
  - ・玩具がない→想像力（イマジネーション）、創造力（クリエイティビティ）、コミュニケーション力を鍛える
  - ・行政が目指すもの→「従順さ」「大人のかかわりの多さ」  
NPO が目指すもの→「主体性」「大人のかかわりの少なさ」（行政と対局）
  - ・忍耐力・集中力・観察力・創造力・危機回避力・自立心・解決力・コミュニケーション力・共同性・共感力・社交性が自然と養われる
  - ・初期投資ゼロ・保育士ゼロで誰でもできる取り組み
- ※世代に限らずコミュニケーション力が低下する傾向の中で、共感力・社交性を修得  
※運営にあたっては公立保育園並みの保育料を実現するために公助が必要（恒久援助）  
※森林率 7 割の全国の地方自治体どこでも設置可能  
※子育てママの関心が高く、利用者もスタッフも言い出しっぺは女性（女性がカギ）

### 4. 『企業活動から見える地域との関わり』

- タビオ株式会社・代表取締役会長 越智 直正 氏
- ・孫子について「兵法」／へいほう：人を使う方法  
／ひょうほう：自ら動くこと
  - ・バカな大将、敵より怖い
  - ・闇を貫く光あれど、光を貫く闇はない→明かりを見つける達人になれ
- ※古人のことわざを学ぶ 関西訛りで聴取不能

◎総じて、地域が元気になることは「女性がカギ」「地域資源である農地・林地の活用」が共通していた。「闇を貫く光」とはまさに農林業が地域活性化のカギという暗示か。